

3. 政策研究大学院大学(GRIPS)の特色

充実した 英語サポート

プロフェッショナル・コミュニケーションセンター(CPC)では、将来世界の最前線で通用するプロとしてのコミュニケーション・スキルと言語運用力の育成をめざし、手厚い支援を行っています。英語による論文執筆のフォローも充実しており、安心して世界に羽ばたくステップを踏み出せます。

博士課程進学の チャンスも

本学には、国際開発分野の博士課程として「G-Cube国際開発コース」も用意されており、国際協力コースの修了者も応募することができます。

入試情報

- 出願するための資格 学士の学位を有するか、入学の前年度3月末までに取得見込みの者等
- 選抜方法 書類審査(第1次審査)及び面接(第2次審査、オンライン)
- 出願期間 Web出願及び書類提出

第1回 試験	第2回 試験
9月～11月	12月～2月



詳細は、募集要項を参照ください。※募集要項は、下記のURLからご確認ください。

<https://www.grips.ac.jp/jp/admissions/guidelines/>

■ 学 費	検定料	30,000円	入学料	282,000円	授業料(年間)	642,960円



※金額は改定になる場合があります。

修了生の主な出身、就職先等

- 出身 農林水産省、防衛省、京都市役所、企業、青年海外協力隊の経験者、新卒者等。
- 就職先 出身元へ復職に加え、外務省在外公館(専門調査員)、国際協力機構(JICA)緒方貞子平和開発研究所、企業等。

修了生の声



芦田 華さん

2021年度卒業
所属:JICA緒方貞子
平和開発研究所

GRIPSではコースの垣根を越えて、多様なバックグラウンドをもつ仲間と共に、様々な分野の先生方から学ぶことができます。日本語・英語、どちらの科目も充実しているので、初めて学ぶ経済学は日本語で、ディスカッション中心の授業は英語で挑戦しました。修了後は学んだことを活かせる職場に就職でき、GRIPSを選んでよかったです。



河野 賢太さん

2022年度卒業
所属:タンザニア大使館
にて専門調査員

国際機関での勤務を視野に入れて、修士号を取得するためにGRIPSを希望しました。授業を通じてアカデミックな専門性を身につけたことも大事ですが、議論を通じて行政官の同僚から学んだことも多かったです。また同時に、民間企業での勤務を通じてこそ得られるスキルも実感できました。国際開発分野での活躍を思い描く民間企業出身の方にもお勧めできる大学院です。

入試に関するお問合わせ

国立大学法人 政策研究大学院大学 アドミッションズオフィス
〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1
Email: admissions@grips.ac.jp

国際協力コース



International
Cooperation
Concentration

UNICEFで貧困地域の子供たちへの支援活動を行うGRIPS修了生

国際開発・国際協力の リーダーをめざす人材を募集します。

政策研究大学院大学(GRIPS)は、政策研究を専門とする国内唯一の大学院として、1997年に創設されました。東京都心の六本木に位置するキャンパスは、国際的な政策研究・教育の拠点となっています。国際協力コースは、2020年4月に公共政策プログラムの中に開設された最も新しいコースです。地球的規模で持続可能な開発目標(SDGs)の達成が求められるなか、いきたいなど、意欲ある方を募集します。

本コースは、国際開発・国際協力の分野において国内外の様々な立場から指導的役割を果たす人材を育成することを目的としています。政府・公共機関、国際機関、NPO、研究機関、企業、新卒者等で、国際開発・国際協力のキャリアで更なるステップアップをめざす方、また、今後こうした分野に関わっていきたいなど、意欲ある方を募集します。

1. コースの特色

1年間の修士課程コース

通常2年間の修士課程教育を1年間で行います。修了者には、修士(政策研究)の学位とともに、国際協力コース修了証(Certificate)が授与されます。



高度開発人材として求められる専門的知識の習得

国際協力のプロフェッショナルとして活躍する、即戦力ある人材を育成します。

- SDGs達成に向けた国際開発・国際協力の実践において必要な専門的能力
- 公共政策にかかる幅広い知識に基づき、多角的な視野から問題解決を図ることのできる能力
- 国内外で様々な立場から指導的役割を果たすために必要となる総合的英語力
- 自ら設定した課題を分析し、研究成果・政策提言としてまとめ、プレゼンできる能力



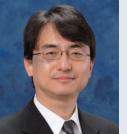
共に学ぶ仲間は途上国からの留学生

学生の3分の2は留学生で、多くが母国で現役の行政官です。英語科目の履修を通じて、将来、仕事でカウンターパートとなるかもしれない開発途上国からの留学生と一緒に学べます。このような環境を通じて、修了後のキャリアにおいて貴重な財産となる人的ネットワークを構築できます。

開発分野において我が国トップクラスを誇る優れた教授陣

開発経済学、地域研究、国際開発政策などで優れた業績をもつ教員、さらに国際機関で指導的役割を果たした経験をもつ専門家が、理論・実践の両面において丁寧に指導します。ポリシー・ペーパーの作成では学生の関心をふまえたテーマ設定が可能で、ティラーメイドの論文指導を行います。

教員紹介

国際協力コースディレクター  山内 慎子 教授 開発経済学・労働経済学を中心とする応用ミクロ経済学 カリフォルニア大学ロサンゼルス校で経済学博士を取得後、オーストラリア国立大学での勤務を経て現職。途上国を対象に教育や保健に関する研究に従事している。	国際協力コース副ディレクター  工藤 年博 教授 東南アジア地域研究 アジア経済研究所、ヤンゴン経済大学、ミャンマー農業灌溉省等をへて現職。東南アジアの現場を歩いて経済発展を考えてきた。
高橋 和志 教授 開発経済学／応用ミクロ計量経済学 政策研究大学院大学で修士号、博士号取得後、日本貿易振興機構アジア経済研究所、上智大学等を経て現職。	園部 哲史 アジア開発銀行研究所(ADBI)所長 開発経済学 GRIPSで教授、プログラム・ディレクター、副学長を務めた後、ADBIで途上国の気候変動対策と経済開発を総合した戦略を研究している。

 中尾 武彦 客員教授 みずほリサーチ&テクノロジーズ 理事長 アジア開発史／国際経済政策 財務省主計局主計官、国際局長、財務官等を務めた後、アジア開発銀行総裁(2013-2020年)を経て現職。
--

2. カリキュラム及び修了要件

必修科目(4単位)

■ 政策論文演習 国際開発や国際協力に関連し、自ら関心のある課題に関してポリシー・ペーパーを作成します。

国際協力コースの指定科目(5科目、10単位)

- Development Economics 開発経済学の理論と分析手法の基礎を学びます。
- Theoretical Foundation of Economic Policy 開発政策の基盤となる経済学の理論を学びます。
- Trade and Industrial Development 貿易と産業発展を中心に経済開発の理論と事例を学びます。
- Development History of Asia: Policy, Market and Technology アジアの開発史を学びます。
- Economic Development of Southeast Asia 東南アジアの経済発展を多角的に学びます。

コース修了要件

■ 必修科目、選択必修科目(8単位以上)、コース指定科目を含む合計30単位以上を取得し、ポリシー・ペーパーの審査に合格することが修了要件です。

公共政策プログラム 国際協力コース イメージ図

政策研究で共通に求められる知識・技能等					
必修科目 (4単位)	政策論文演習 (ポリシー・ペーパー*)				
選択必修科目 (8単位以上)	ミクロ経済学	マクロ経済学	計量経済学	費用便益分析	政策過程論
	行政の改革・革新と政策評価	The World and the SDGs	GRIPS Forum I	GRIPS Forum II	データサイエンス基礎
	政策科学のためのデータサイエンスと情報数理 I	計画と評価の数理	実践データサイエンス	政策科学のためのデータサイエンスと情報数理 II	行政法の基礎

特定課題・分野における専門的能力				
国際協力コース指定科目(10単位)				
Development Economics	Theoretical Foundation of Economic Policy	Trade and Industrial Development	Development History of Asia: Policy, Market and Technology	Economic Development of Southeast Asia

選択科目(英語・日本語で行われる多様な科目を履修可能)

例) 地方行政論、医療政策論、食料・農業・政策特論、文化政策研究の基礎、科学技術イノベーション政策概論、Policy Design and Implementation in Developing Countries, STI in Developing Country Context、他

*カリキュラムは変更される場合があります。

Global Studies
コース

英語で開講する科目の履修を推奨
留学生との交流(世界のリーダー)
人的ネットワークの形成

※コースの概要は下記のURLからご確認ください

https://www.grips.ac.jp/jp/education/dom_programs/public/icc/



※ポリシー・ペーパー(例示)

- 中南米日系人が日本企業で活躍できる可能性 一ボリビアに焦点を当てた現状と課題一(2023年度)
- 我が国におけるSDGsの認知度推移の背景に関する考察(2022年度)
- 中小企業の技術・経験を活かした沖縄県特有の国際協力のあり方: JICA民間連携事業を事例に(2022年度)
- 途上国に対する装備品の供与に関する考察(2022年度)
- Estimating the Impact of Coup d'état on the African Economy(2022年度)
- Does Education Increase Women's Obesity in Kenya?(2021年度)
- The Impact of Digital Platforms on Tourist Accommodations and the Role of SMEs: The Case of Can Tho, Vietnam(2021年度)
- Impact of Agricultural Extension Services: Opportunity for Raising Agricultural Productivity in Malawi(2020年度)